

貨幣成長が産出ギャップと経済成長に与える長期的な影響

—ニューケインジアンモデルとラーニング・バイ・ドゥーイングモデルの統合—

早稲田大学

井上智洋

早稲田大学

品川俊介

大東文化大学

都築栄司

ニューケインジアンモデルとラーニング・バイ・ドゥーイングモデルを統合する。すなわち、DGE モデルに、名目賃金粘着性とラーニング・バイ・ドゥーイング及び知識のスピルオーバーによる内生的経済成長を導入する。このようなモデルの定常状態の分析によって、以下の帰結が示される。長期において物価上昇率は貨幣成長率と経済成長率の差に等しい。より高い貨幣成長率は、より多い雇用量とより高い経済成長率をもたらす。貨幣成長率を経済成長率に等しくするとき、ゼロインフレと自然雇用水準、潜在成長率が実現する。物価上昇率と経済成長率の間には、正の相関がある。経済成長率より低い貨幣成長率は、デフレーションと負の産出ギャップ、潜在成長率未満の経済成長率をもたらす。